

条幅随意参考

復俾一州、俾圖報効。直力氣尚壯、



※抜粹可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部（無料）にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

高橋香樹会長担当 半紙臨書課題

(7月22日締切) 出品料440円

せんきちよくひょう  
薦季直表・鍾繇



第五回

1、字句「矜其老困」

2、形式「半紙タテ使用。右に「矜其」、左に「老困」と臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と書き入れる。

3、概観「薦季直表」も五回目となりますが、文章が短い為今回が最終回となります。鍾繇の書は、王羲之の学ぶところとなり、一群の細楷（柴穀論・黄庭経等）、また蘭亭序の表現にのび

れます。唐代に入って虞世南・褚遂良に発展し、宋代にも多くの人に影響を与え、明代に入ると祝允明の学ぶところとなり、清朝に入ると劉石庵に強い影響を与えています。鍾繇の書を引き続き学ばれることを切望します。

4、各字のポイント

矜 偏は少し小さくとり、隣の左払いは立ち気味にし、右払いは長く強調される。

其 長い横画が特徴だが、最後の二点は行書的である。

老 三画目の横画の起筆では、しっかり筆を突いている。送筆ではその弾力を利用して筆を引き上げる。五画目は右から入筆。

困 一・二画の縦画は太くゆるぎがない。「木」は少し左に寄せる。

一字書課題

(七月二十二日締切)

服

(1) 書体自由 (2) 半紙タテ

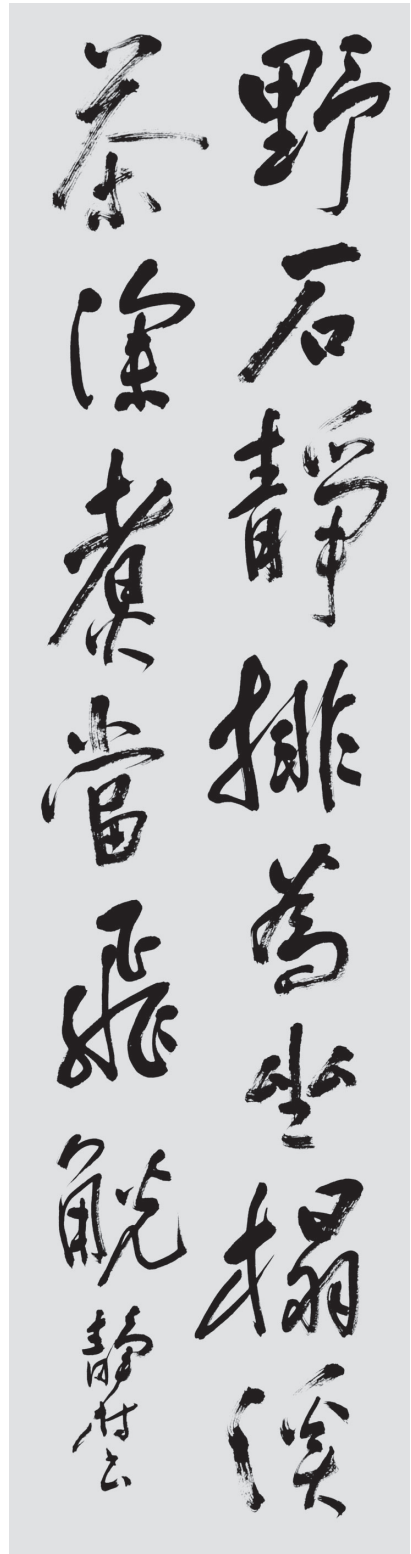
(3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる

(4) 出品料 四四〇円

(5) バーコード券の余白に「一字書」と記入

A 鈴木静村先生書

野石静排爲坐榻 溪茶深煮當飛觥(伍喬)  
野石静かに排して坐榻と爲し、溪茶深く煮て飛觥に當つ。



B

高橋香樹会长書

兼毫四号筆を使い、根元までたっぷりと含墨させた「潤々渴」の三字区切りの構成。四号筆程度の筆で十四文字を二行に書く場合、この手法は思い切りよく、豪放に表出することができます。四字目で墨継ぎとなり、左右の潤々渴は並立しません。初歩段階者には、潤々渴表出の切り口として是非挑戦を。ただ、筆の大きさ(四号筆より大)含墨の程度により渴筆の表出は微妙ですから、この点弾力的に対処して下さい。



今回も草書での作とした。また、連綿線を多くと考えてみたが、多くすることにより、作品が騒がしくならないように配慮した。連綿線は、上の字の右下から左上に使われることが多く、同じ動きも多くなると思われるのでこの点も考慮した。二字連綿が四ヶ所、三字連綿が一ヶ所。墨継ぎは「坐」と「當」。

訳：野の石のごみを静かに払って腰を掛け、溪の茶をよく煮て互いに飲み交わす。

予告 (八月二十二日締切)

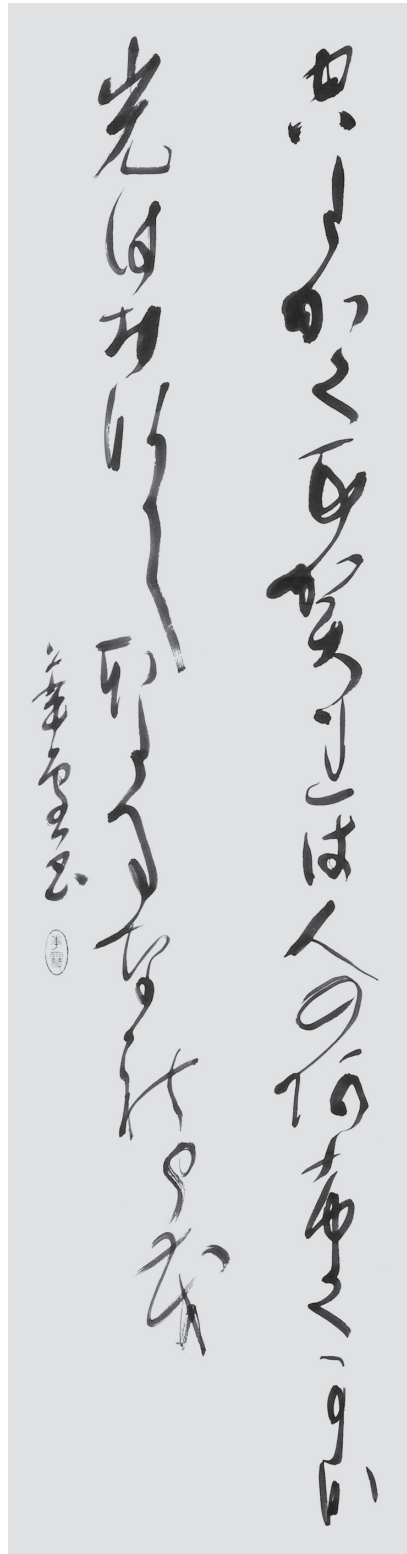
無限風光在險峰 (毛澤東)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A

平岡華雪先生書

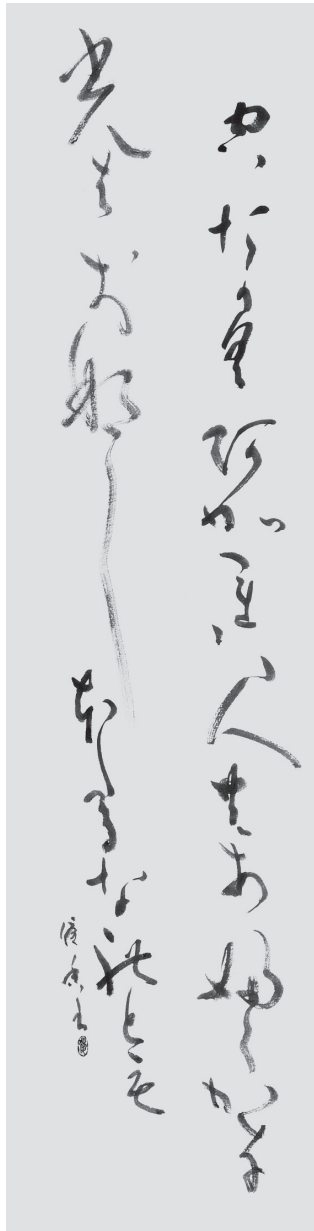
空高くあがれば人のあふぐかな光はおなじほたるなれども(正風)  
空多か久あ賀連は人の阿布久可那光はお那し本多るな礼と茂



B

本澤優香先生書

空た可具阿可連八人農あ婦久か奈光者お那し本多るな礼と毛



学び方

- 今回は、二行とも頭が漢字になりましたので、一行目の出だしを少し低めの位置から小さめに書き始めてみました。
- 連綿が切れているところ(特に二行目の渴筆部分)ほど、気分をつなげるように流れを大切にしました。
- 墨継ぎは「本」。本タテを意識した渴筆の「し」に添うようにそっと入り、隣との関係を考えながら筆を運びました。
- 創作するうえで、常に全体と部分の関係を考える事が大切だと思います。
- 墨色は、潤濁や墨自体の色の変化など、作品を完成させる上で大事な要素の一つです。墨の潤濁が効果的に表現できると、紙面の白が美しく、立体感が生まれるでしょう。

予告 (八月二十二日締切)

夕立の雲もとまらぬ夏の日のかたぶく山にひぐらしの聲(新古今和歌集 式子内親王)

高崎正風

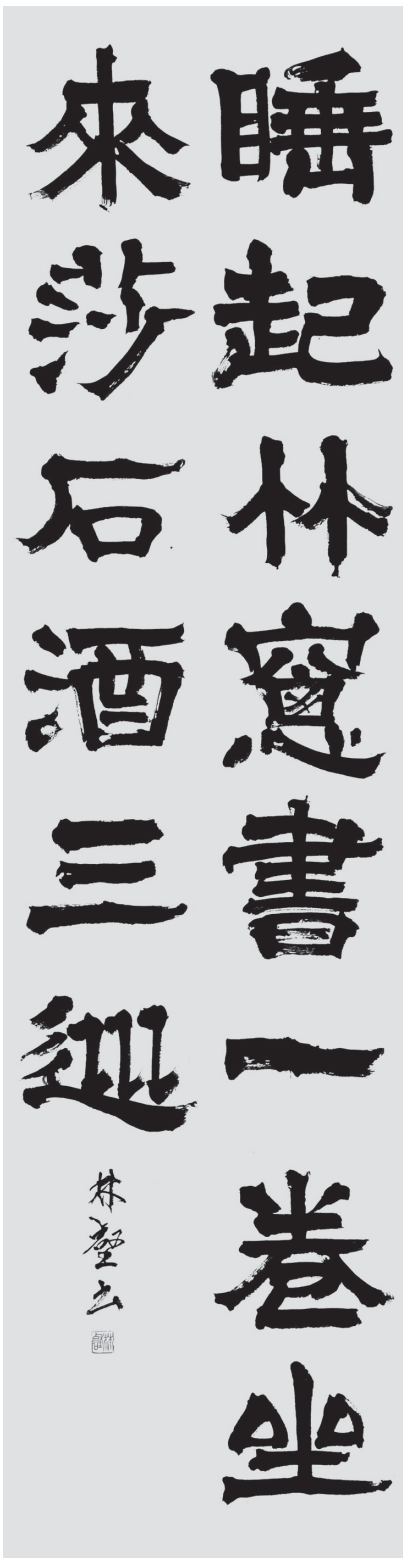
一八三六年九月八日(天保七年七月二十八日) ~ 一九一二年(明治四十五年二月二十八日)  
幕末の薩摩藩士、明治政府の官僚、歌人。八田知紀に学び桂園派の歌人。明治天皇の作歌の点者を命ぜられる。明治二十一年御歌所長となり、終世その職にあった。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部 随意参考

高山林壑先生書

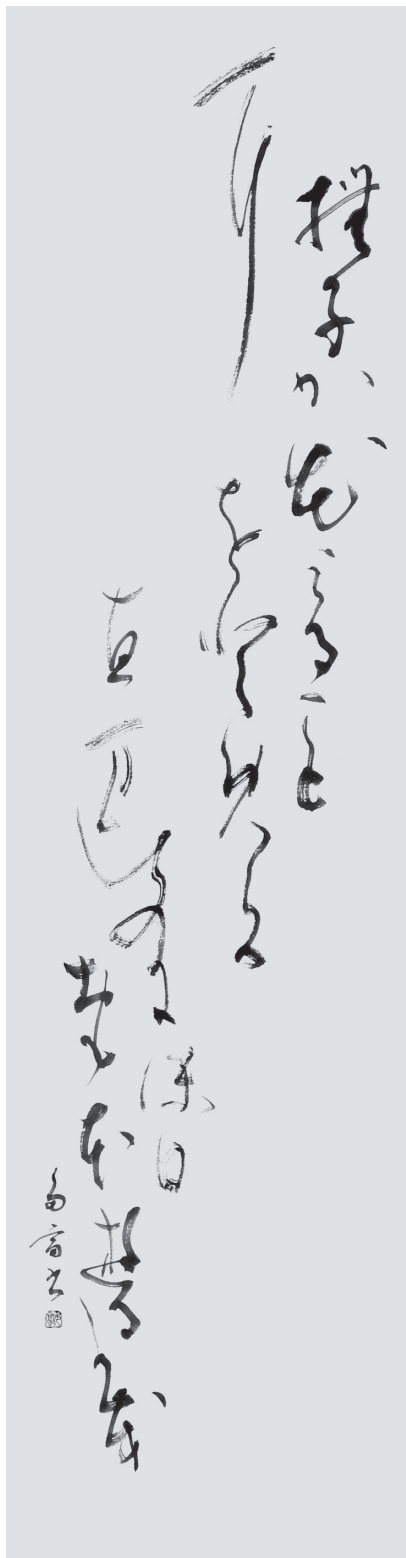
睡起竹窓書一卷 坐來莎石酒三巡（應景）  
睡より起き竹窓書一卷 坐し来る莎石酒三巡



訳：眠りよりさめてみると竹のそよぐ窓へにおいた書物一冊はそのまま、目ざましに莎石に座して飲む酒は三度も杯をかさねた。

森多富先生書

撫子が花みることにとめらが笑まひのほひ思ほゆるかも（万葉集 大伴家持）  
撫子か花三ること耳を登免ら可恵万比の尔保日おも本遊る可茂



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

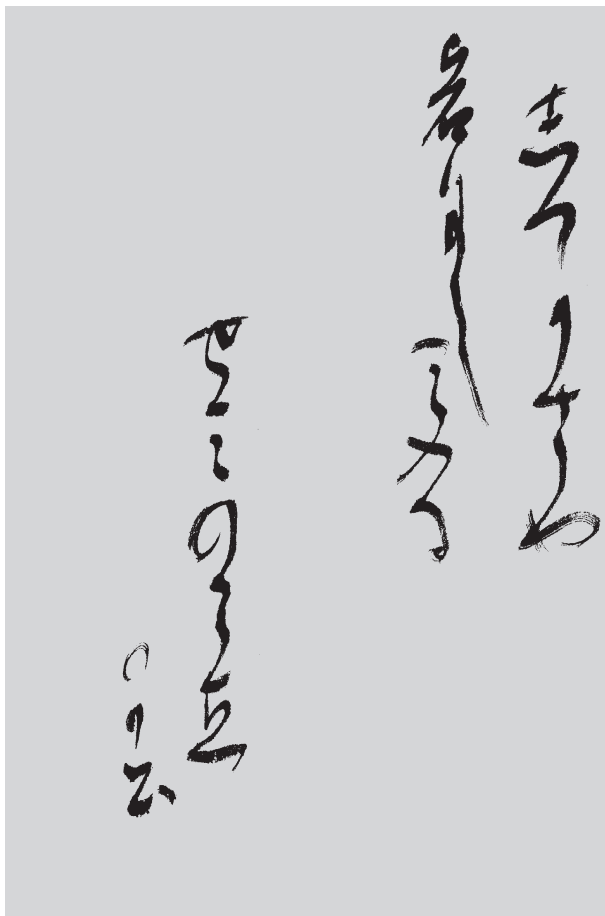


かな部課題参考 (七月二十二日締切)

漢字部課題参考 (七月二十二日締切)

予告 (八月二十二日締切)

人音のやむ時夏の夜明かな (蓼太)



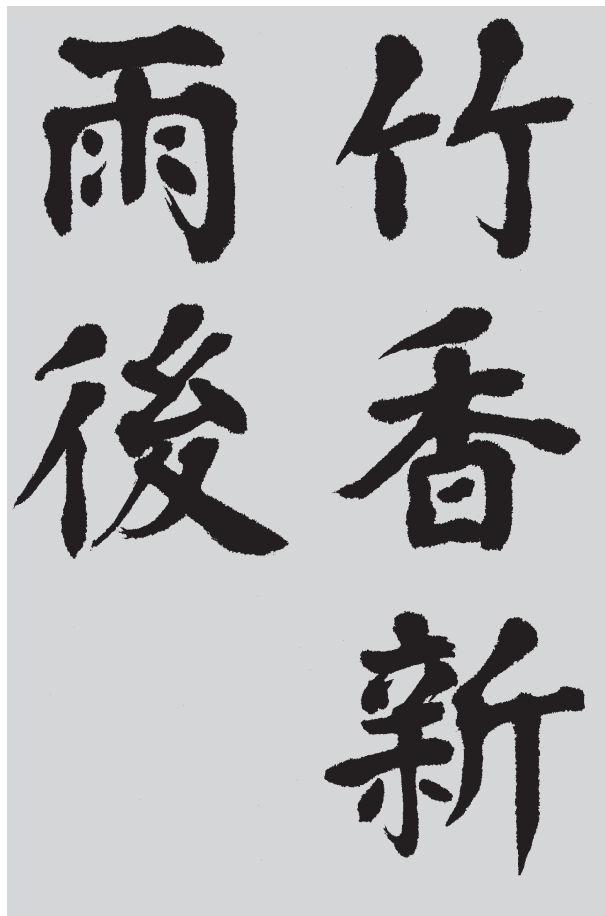
平岡華雪先生書

閑さや岩にしみ入る蟬の声 (芭蕉)  
志つかさや岩尔し三入るせ三のこ恵

〈まず、遅速を〉  
初歩段階の作品で特に気付くことの一つは、「遅速」の用筆。これは基礎用筆の一つで、ぜひ習得してほしい。これが会得できると作品は一変する。(先生の用筆を見るのが第一)

予告 (八月二十二日締切)

雲過知禅意 (莊宝書)



平岡華雪先生書

竹は香し新雨の後。(張籍)  
訳：新たに降った雨があがって竹がかんばしい。

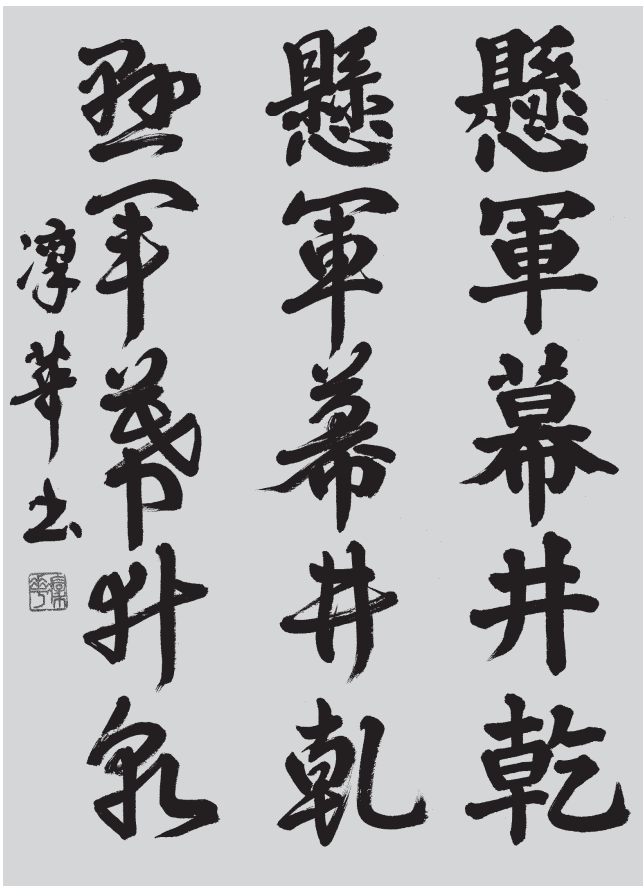
〈二つの主画をピシッと決める〉  
特に、「新・後」の末画は各行としても主画。いきいき活筆で決めたい。



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (七月二十二日締切)

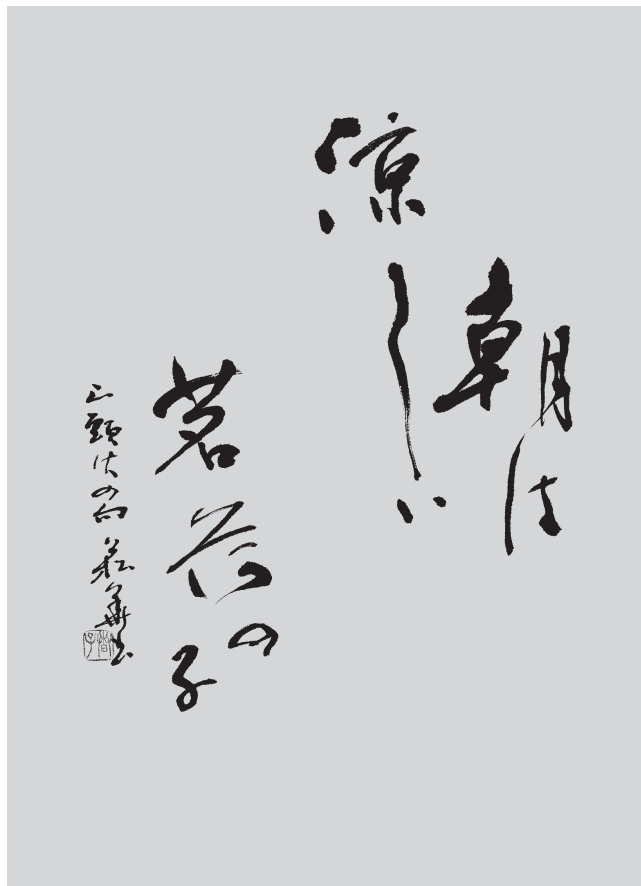


勝間 凜華 先生書  
懸軍幕井乾 (杜甫) けんぐん びやうせいかん

訳：敵地へ深く攻め入った軍隊の幕舎では、井戸の水も乾ききった。

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

漢字かな交じりの書課題参考 (七月二十二日締切)



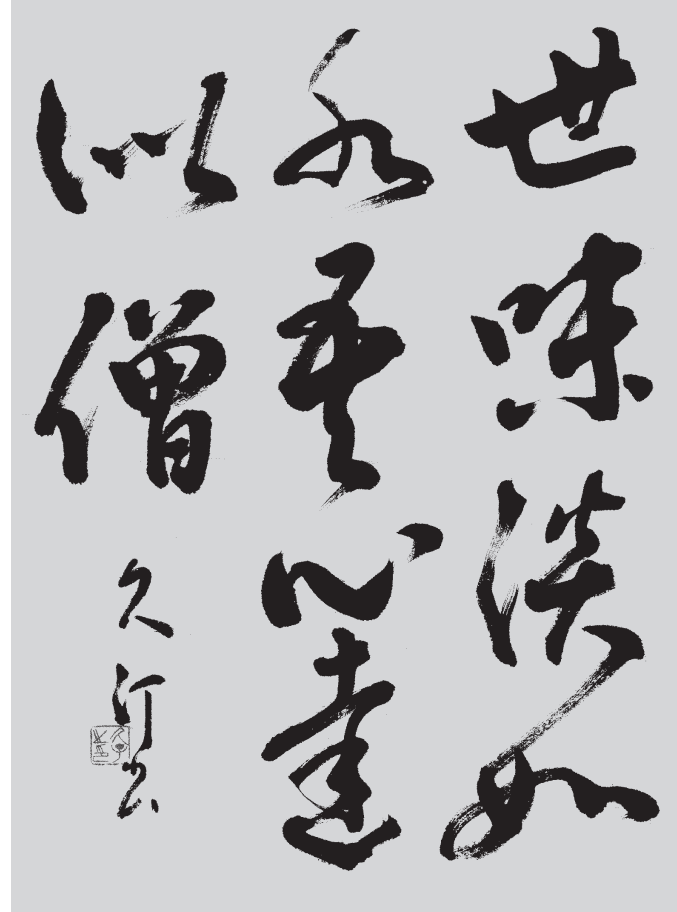
小暮 崧華 先生書  
朝は涼しい茗荷の子 (種田山頭火)

放浪の禅僧、種田山頭火の自由律俳句です。  
暑い夏の行乞の日々、朝の涼しさの中に、茗荷の子を見つけて安らぎを覚えたのでしょ  
か。「朝」を大きく書き、「涼しい」を添わせて文字群を作り、「茗荷の子」をやや小さい字で  
まとめて書いてみました。「茗荷の子」のかしこそうで愛らしい様子を想像しながら…。

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

笹崎久汀先生書

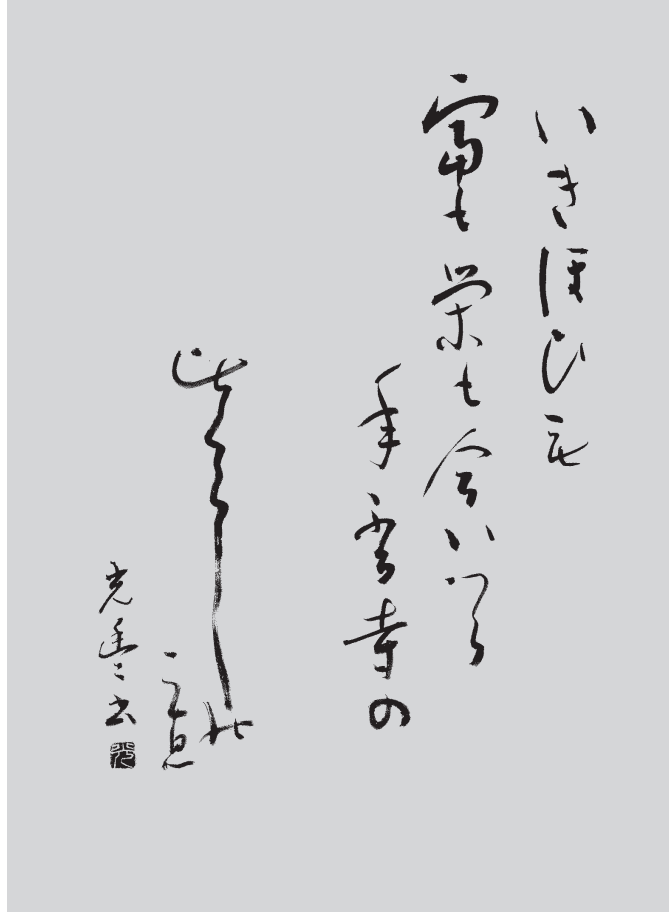
世味淡如水 吾心達似僧（戴石屏）  
世味淡として水の如く 吾心達なる僧に似たり。



訳：この世の味というものは水のように淡白で、わが心は物の理に通達して世外に超然たること僧そのままである。

絹村光豊先生書

いきほひも富も栄も今いづら年ふる寺のひぐらしの声（佐佐木信綱）  
いきほひも富も栄も今いづら年ふる寺のひぐらし能こ恵



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

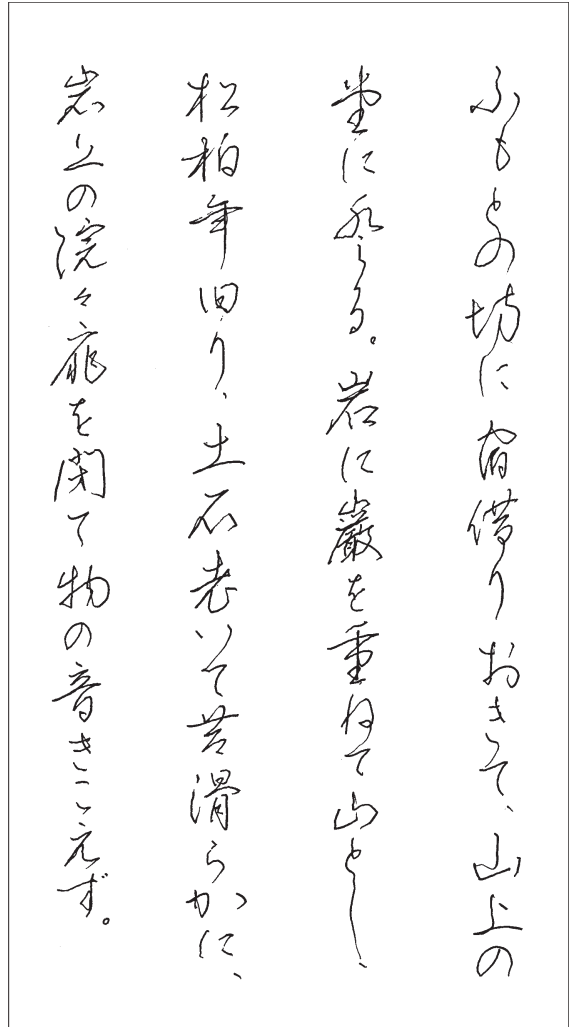
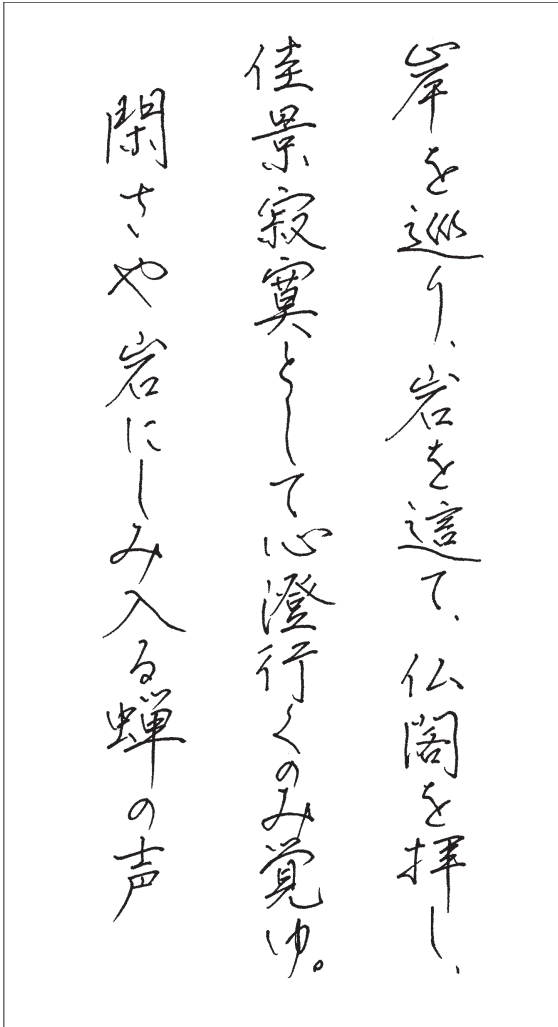
①出品部門（例：「随意部」） ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

赤木典子先生書

川上香蓉先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)



課題 1 (初段階以上)

ふもとの坊(ぼうやどか)に宿借りおきて、山上の堂に登る。岩に巖(いわお)を重ねて山とし、松柏年旧り、土石老いて苔滑らかに、岩上の院々扉を閉て物の音きこえず。

『おくのほそ道』松尾芭蕉

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段階以下)

岸を巡り、岩を這て、仏閣を拝し、佳景寂寞として心澄行くのみ覚ゆ。閑さや岩にしみ入る蟬の声

『おくのほそ道』松尾芭蕉



# 研究部課題 (七月二十二日締切)

(課題)



〔出典〕『建中告身帖』顏真卿

顧先勲舊方睦親賢 俾其調護以全羽翼

先ノ勲舊ヲ顧ミテ方ニ親賢ニ睦ブ。其レヲシテ調護セシメテ以テ羽翼ヲ全クセン。

▽注意

- (1) 半切タテに臨書する。
- (2) 二行書き・字詰め自由。
- (3) 落款は「居仁臨」と書き入れること。雅印は無用。(出品者の本名又は雅号を書き入れた作品は不可)

▽出題要項

- (1) 資格⇨推薦、準推薦、推薦格合格者(漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。また同人、準同人も歓迎)
- (2) 締切⇨七月二十二日必着
- (3) 発表表⇨書建九月号誌上
- (4) 出品料⇨九四〇円同封
- (5) 出品方法  
ア、出品は一人一点とする。  
イ、私製の出品票(縦10cm×横5cm)を作品の左下に貼付する。

## 審査総評

漢字かな交じりの書 様々な構成に取り組む姿勢に感心した。今後は書の基本である線質、流麗なリズム、滲み・かすれ等を追求して欲しい。

(槍田)

硬筆部 書き慣れる事が大切だと思います。手本を見ることに夢中で書いてると動きが滞ります。まめにペンを持つことです。

(石原)

氏名・雅号 統一のお願い

雅号への変更後は、毛筆作品・硬筆作品全て同じ落款(雅号)を書き入れて下さい。

## 一般部 臨時昇級試験の申し込みについて

申し込み方法

- ・受験する月の課題と返信用ハガキを同封して、封筒に赤で「臨時昇級試験」と記入。結果は、ハガキで通知。発表は翌々月の誌上。
- ・昇級受験料と同じ金額です。郵便振替でお願いします。

受験資格

毛筆：特選以下 硬筆：二段以下

毛筆は第一部、第二部、第三部の注意事項と受験資格参照

第一部 条幅 三、八〇〇円

第二部 半紙 二、五〇〇円

④漢字部 楷、行、草三体

第三部 半紙 二、〇〇〇円